シアワセを届ける シゴトがあります

介護のシゴト

GUIDE FOR CAREGIVER IN KAWASAKI

シアワセを届ける人 介護のプロ インタビュー

価値観を広げてくれる

本質的なケアを目指す

身近な存在として寄り添う

日々の現場が刺激エネルギー

「シアワセを届けたい」を応援します

サポート施設

川崎の福祉の職業をご紹介

川崎市福祉人材バンク

川崎市のいわば「福祉のハローワーク」です。
無料職業紹介のほか、お仕事相談会などのイベントを開催しています。
お気軽にお問い合わせください。

イメージキャラクター「ほっとん」

お問い合わせ

川崎市 中原区 上小田中6－22－5 川崎市総合福祉センター（エポックなかはら5F）
JR南武線 武蔵中原駅 直結
電話：044－739－8726　メール：jinzai@csw-kawasaki.or.jp

福祉関係の研修を行っています

川崎市高齢社会福祉総合センター

市民や市内介護サービス事業所で働く職員に向けて様々な研修を企画、運営しています。

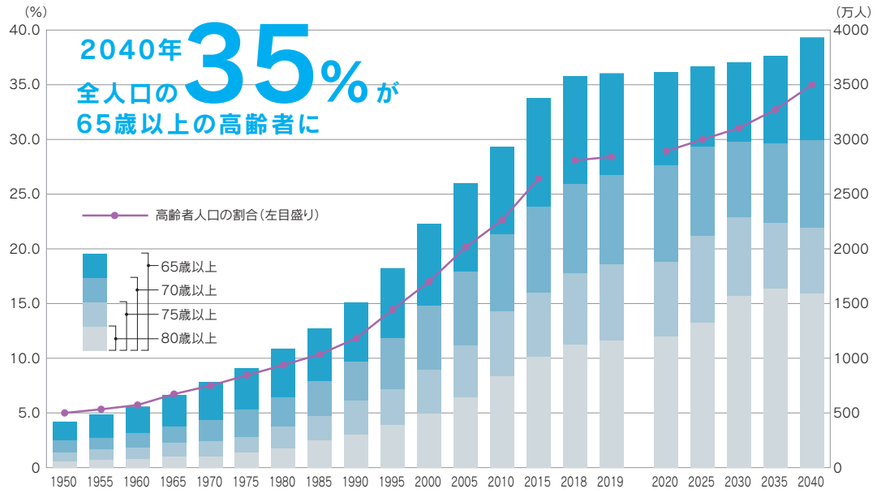
お問い合わせ

川崎市 多摩区 長沢長沢2－11－1
JR南武線 武蔵溝ノ口駅、小田急線 向ヶ丘遊園・生田・百合ヶ丘・新百合ヶ丘各駅、
東急田園都市線 溝の口・宮前平・あざみ野各駅からバスをご利用ください
電話：044－976－9001　メール：kourei-c@nifty.com

シアワセを届けるシゴトがあります

介護の仕事は、身体上・精神上の障がいにより日常生活に支障のある方が
社会の一員として尊厳ある自立した生活を送れるように、
さまざまな角度から寄り添い、支援していく仕事です。
「ありがとう」の言葉が生まれる介護の現場。
ケアによって人と人の心が通いあう、そんなかけがえのない瞬間があなたを待っています。
介護という仕事を通して、一人の人として誰かの人生に寄り添うことは、
何ごとにも代え難い経験になるでしょう。
ぜひ介護の仕事の楽しさ、奥深さに触れてみてください。

高齢者人口及び割合の推移



(総務省統計局ホームページより)

障害者の概数

全人口の **7.6%** が
なんらかの障害を持っている

身体障害者	34人 / 1000人中
知的障害者	9人 / 1000人中
精神障害者	33人 / 1000人中

(令和元年度 障害者白書より)

介護のシゴト
GUIDE FOR CAREGIVER IN KAWASAKI

CONTENTS

主な介護の仕事 …… 2~3
シアワセを届ける人 介護のプロ インタビュー …… 4~7
介護の職種 …… 8
主な介護サービス …… 9
キャリアパス …… 10
介護福祉士への道 …… 11
サポート施設 …… 12

主な介護の仕事

生活支援

利用者さんの意思を尊重し、日常生活を支えるのが生活支援です。自宅に訪問し、利用者さんが自力で行うことが困難な掃除、洗濯、調理、買い物、薬の受け取りなどの家事業務や、就労支援、社会参加の場の確保などを行ない、さまざまな方法で利用者さんの自立を支援していきます。個人宅に入って行なう業務であるため、利用者さんに安心してもらえる関係性を築くことが重要となります。

社会活動支援

利用者さんの社会参加をサポートし、社会の一員としてより良い生活を送れるように支援するのが社会活動支援です。介護が必要な利用者さんや、身体・知的・精神障がいのある利用者さんが、地域の身近な人間関係から孤立したり、社会との接点を失ってしまうことを防ぐために、地域の催しや活動情報等を共有し、社会参加を継続できるように支援していきます。

身体介護

利用者さんの身体に直接接触して介助を行なうのが、身体介護です。老人ホームやグループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、ショートステイなどで、食事介助や排せつ介助、入浴介助、更衣、口腔ケア、清拭などを行ない、利用者さんが一人で行うことが困難な生活動作をサポートします。近年は「介護助手」や「介護補助」などと呼ばれる、介護資格を保有していない方向けの業務も増えています。

相談・助言

入居希望者や入居中の利用者さん、患者さん、またそのご家族に、介護に関する専門的な相談業務を行なうのが相談・助言です。老人ホームや病院、地域包括、デイサービス、ショートステイなどで、入居にあたっての相談や、介護にまつわる各種サービスの案内、契約、退居の手続きまで幅広く担当するため、介護の知識だけでなく一般的な契約法や介護保険法などの法的な知識も必要になります。

シアワセを届ける人 1 介護のプロ インタビュー

山口道子
MICHIKO YAMAGUCHI

やまぐち みちこ：40 歳 / 宮前区 / 介護支援専門員・介護福祉士
福祉の短大卒業と同時に「介護福祉士」取得。20年の福祉職員のキャリアの中で、旅、結婚、出産、子育てを経験。現在、3人の子どもを育てながら、介護職との両立を模索中。

介護の仕事が、自分の価値観を広げてくれた

山口さんは子育てをしながら現役でお仕事もされていますね。

現在、7歳、4歳、0歳の3人の子どもがいます。介護の現場で働き始めてからは、ちょうど20年になりますね。福祉の短大を卒業して地元の佐賀から介護士のキャリアをスタートさせ、その後川崎に移り、結婚・出産を経験しました。家事や子育てをしながらの仕事は、思い通りにいかないことも多く大変です。でも、日々利用者さんと接するのが本当に楽しくて、仕事は気分転換や趣味の場所という解放された感覚でできています。

子どもたちには、自分が働いている姿を見ていて欲しいです。仕事を通して、「子どもたちがいるから自分は頑張れていること」を伝えられたらいいなと思います。子どもの成長段階に合わせながら仕事の幅を広げ充実させていくのが、今後10年の目標です。

福祉職への関心はいつ生まれたのでしょうか？

小学校6年生の時に交換学習で養護学校に行ったのが福祉の世界との出会いでした。その時の体験が忘れられずに福祉の短大へ進学。特別養護老人ホームの実習で利用者さんと接したときに、「福祉の仕事しかない！」とビビッときたんです。高齢者の方にはなんだか怖いイメージがあったのですが、実際は本当に優しい方ばかりでとても心が癒されたこと。そして何よりも、介護の現場は人と人との助け合いでできていることを知り、この仕事に就くと決めました。

介護の仕事を長く続けられたのはどうしてでしょうか？

やはり「この仕事が好きだから」というのが一番にありますが、様々な経験をさせてもらう中で自分の価値観を広げていけたことが大きかったと思います。

実は働き始めて5年経った頃、「今の自分では介護の仕事は務まらない」と感じた時期がありました。利用者さんは自分よりずっと年配の方。実に様々な経験をされてきた方がたくさんいるんですよ。そのような方に対して、自分はいつも決まった言葉でしか接することができない。相談相手になるには、あまりにも自分の視野が狭すぎると感じたんです。

そんなとき、世界一周を経験した同僚やスウェーデンへ福祉の勉強をしに行く同僚に刺激を受け、私も一度世界へ出てみようと半年間仕事を休んで旅に出ました。この期間でぐっと価値観が広がりましたね。そして旅をしていると、やはり高齢者の方ばかりが目について、「またこの仕事に戻って来たい！」と思ったんです。

現在勤務している川崎の職場には、旅から戻って同じ法人内で働いていたときに立ち上げの話をいただいたのがきっかけで来ました。仕事を始めた当初は九州から出るのが怖かったのに、世界へ行き、今こうやって川崎で生活しているのは、介護の仕事を通してたくさんの刺激的な人との出会いがあったからかもしれません。

20年間ずっと同じ法人で働く中で、ケアハウス、ホームヘルプ、デイサービスなど様々な業務を経験し、「こういう世界もあるんだ！」と常に価値観が広がってきた感覚です。

3人の子どもを育てながら介護の仕事をする山口さん。仕事が終わった後は、職場併設の託児所にお迎え。

シアワセを届ける人 2 介護のプロ インタビュー

介護のシゴト

和田昌俊
MASATOSHI WADA

わだ まさとし：33 歳 / 中原区 / 生活支援員チーフ・社会福祉士・精神保健福祉士
福祉大学卒業後、障害者支援施設（通所）に12年間勤務。生活支援員チーフとして次世代の職員の育成にも注力。「衛生管理者第1種」勉強中。趣味は筋トレと旅行。

身近な存在として寄り添う心で共に人生を歩みたい

利用者さんと接する上で、大切にしていることはありますか？

障害者支援施設に勤務する中で一番大切にしていることは、現場での利用者さんとのコミュニケーションです。とくに知的障がいのある方の場合は、表出している言葉や行動は心境のごく一部であることが多いため、さらに奥にある本当の気持ちを汲み取ることが重要になってきます。利用者さんの中には、自分の気持ちに我慢して、言葉に出せず、しんどくなってしまう方もいるんですよ。

「自分はこの人にきちんと寄り添うことができているのか？」と自問自答を繰り返し、悶々とすることもありますが、利用者さんの「やりたい気持ち」を実現していけるような環境が作れたときや、利用者さんに「ありがとう」と言葉をかけてもらったときは、自分の悩みもどこかへ吹き飛ぶような喜びを感じ、気分爽快になりますね。

身近な存在として寄り添い、その人と幸せを共有する。そして誰かの思い出になれることが、福祉の仕事を続ける原動力になっています。

12年間のキャリアの中で大変だったことはありますか？

実は、職場での人間関係が原因で一度だけ仕事を辞めたいと思ったことがあります。その時は施設長に状況を相談したことで解決したのですが、対人関係の業務がほとんどを占める福祉の現場で良好な人間関係を築くのは、今でもとても苦労する点ですね。職員同士で対話ができなくなってしまうと、それが利用者さんの生活に影響してしまうこともあるので、普段からコミュニケーションを多くしてお互いが話しやすい関係づくりを意識しています。

福祉の仕事には正確な答えがない業務が多いので、どうしても結果が見つかりにくいです。それが難しい点であり、同時にやりがいでもあると感じているのですが。業務で行き詰まったとき、私は趣味の筋トレでモヤモヤした気持ちを発散しています。どんな仕事をしていてもそうだと思いますが、やっぱりリフレッシュする時間は大切ですね！

そもそも、和田さんが福祉の仕事を志したきっかけは何だったのでしょうか？

福祉の仕事を意識したのは高校生のとき。幼いころから近居していた祖父が病気で体調を崩し、サポートが必要になったのがきっかけです。大好きな祖父が病気で時折辛い表情になるのを見て、「自分にできることは何だろう？」と考える時期が続きました。

会話をしたり一緒にテレビを観たりしながら、祖父と何気ない日常を共有すること。それが私が出した答えでした。本当に必要なサポートとは、特別に何かをしてあげることではなく、「その人に変わりなく寄り添うこと」だと、祖父と接する中で感じたからです。この思いが、福祉の仕事を志した原点になっていると思います。祖父と過ごした最期の時間は、一緒に高校野球の中継を観ていました。これは今でもずっと心に残る大切な思い出です。

利用者さんと近くの公園に外出するのも日々の業務。和田さんの声かけで利用者さんの感情が引き出され、楽しい時間が流れていく。

田口 涼
RYO TAGUCHI

たぐち りょう：33 歳：/ 幸区 / 生活相談員・介護支援専門員・介護福祉士
専門学校卒業後、「介護福祉士」「介護支援専門員」を取得。
現在は「社会福祉士」取得を目指し勉強中。妻と子ども2人の4人暮らし。

多方面から介護を見る〝バランス力〟で本質的なケアを目指す

田口さんはいつ福祉の仕事に興味を持ったのですか？

私が高校生まで住んでいたのは、ご高齢の方が家を行き来するような町でした。ご高齢の方と接する機会がたくさんあったので、幼い頃から自然と福祉の仕事には興味を持っていたんです。「福祉職はおじいちゃんおばあちゃんと楽しくお話をする仕事」という程度の軽い認識だったのですが(笑)。

その考えが変わったのが、高校の福祉実習で介護老人保健施設に行ったとき。実際の現場を見て衝撃を受けたのです。身体介助が必要な方や、認知症でコミュニケーションを取るのが困難な方など、さまざまな高齢者がいることを初めて知りました。そこで排泄介助を任されたときに、想定外の出来事が起こり硬直してしまって、うまく対応ができなかったんです。でもそれを見たスタッフの方がテキパキと対応されて、利用者さんが「ありがとう」と嬉しそうな表情に変わった。ケアによって利用者さんの感情が引き出された場面を目の当たりにし衝撃を受けたと同時に、「これが本当の介護なんだ」と感動しました。このとき、自分の目指すところは「福祉」だと感じたんです。

生活相談員、ケアマネジャーとはどういったお仕事なのでしょうか？

施設の窓口として入居の案内をしたり、入居者さんやご家族の方の意向を反映して最適なケアプランを提案する仕事です。学校卒業後は介護士として働いていましたが、より広い視野でその人をケアできる立場でいたいと感じ、この仕事を選びました。

介護は、現場でのワンマンプレイではなく、介護士、ケアマネジャー、医師、看護師、機能訓練士、管理栄養士、厨房の職員等の専門職が連携を図って進めていく多職種協働のチームケアです。その人らしい生活を多方面からケアしていくこと。それが「本質的な介護」だと日々感じています。

本人やご家族の多様なニーズを、まずは受け入れる姿勢でいること。自分と意見が違っても、それが利用者さんにとって害のないことであれば、他職種と連携をとる、家族の確認をとる、一度試してみるなど、様々な方法を提案していける「バランス力」を意識していきたいですね。現在は、「社会福祉士」の資格取得に向けて勉強中です。

福祉の仕事に興味のある方は、何から始めれば良いでしょうか？

福祉の仕事に興味があっても、いきなり現場に入って直接介護をすることに抵抗がある方もいらっしゃいます。しかし最近は、フロアアシスタントや介護補助員という名前で、洗濯、食器洗い、シーツ交換、オムツやタオルの準備などの間接業務を行ないながら現場に触れられる仕事も増えています。高校生のアルバイトを受け入れている施設もあるんですよ。このように、福祉の仕事はだんだん身近なものになりつつあるので、比較的目指しやすい職業へと変化してきていると感じます。ぜひ、福祉の世界に一歩足を踏み入れてみてください。

田口さんが面談した利用者さんとご家族の方と記念撮影。最適なケアを提供するためには親密なコミュニケーションが欠かせません。

山崎 映子
EIKO YAMAZAKI

やまざき えいこ：63 歳 / 中原区 / ホームヘルパー・介護福祉士・同行援護従業者
結婚・出産後、理系女子から転身。2 人の子どもを育てながら「介護福祉士」「同行援護従業者」を取得し、ホームヘルパーとして 20 年以上勤務。目標は、78 歳まで介護士として働くこと。

日々の現場での刺激が仕事を続けるエネルギー

山崎さんは結婚・出産後にホームヘルパーを始められたのですね

結婚前は、建築や機械系といった理系分野の仕事をしていました。その後、結婚・出産し仕事復帰するときに、これまでとは全く異なる福祉の仕事をしてみようと思ったんです。育ての親のように接してくれた叔母の認知症に気づかず、何もお世話をしてあげられなかったことが心残りで…それを他の方々にして差し上げることで、自分の気持ちが救われるような気がしたんでしょうね。
数ある福祉職の中でホームヘルパーを選んだのは、訪問単位で仕事を組み立てられるからです。たとえば訪問と訪問の間に時間が取れれば、自宅に戻って家事をしたり別の用事を済ませたりと、ある程度融通が効きます。仕事と家事のバランスを取りながら無理なくキャリアを積んでいけるので、主婦の方にぜひおすすめしたい仕事です。私のように子育てがひと段落してから、仕事量を増やして働くことも可能です。

介護職の魅力はどういったところにありますか？

介護の仕事を始めて、まず世の中には本当に様々な方がいることに気づかされました。戦争を体験された方は物をとても大事になさるし、たとえば煮魚の汁一つとっても、それぞれ活用の仕方が違う。その方の人生経験や考え方に触れ、生活を知ることが日々刺激的です。

また、声かけの工夫ひとつで状況が好転していく経験も、介護の仕事をやめられない理由ですね。何ヶ月も入浴を拒んでいる認知症の方を何とかしてお風呂に入れなければならない、という現場がありました。どうしたら入ってもらえるのかと試行錯誤していたときに、その方が奥様のことをとても愛していらっしゃって、寝たきりの奥様を一生懸命介抱していた風景が頭をよぎったのです。

これだ！と思い、「奥さんがお風呂に入ってとても気持ちが良かったと言っていたから、ちょっと入ってみない？」と声をかけてみました。すると、「あぁそうか。じゃあ入ってみようか。」と入浴してくれたんです。タイミングやその時のご本人の気分などさまざまな要素が絡んで生まれた結果ですが、思わず「よし！」とガッツポーズをしてしまうぐらいの達成感がありました。利用者さんと心が通じたとき、本当にこの仕事をしていてよかったと感じます。

これからホームヘルパーの仕事を始める方にアドバイスはありますか？

ホームヘルパーは1人で現場に入って行う仕事なので、「全部1人で判断し、行動しなければいけない」とプレッシャーを感じる方もいます。でも実際は、現場で何かあったらすぐサービス提供責任者に相談できますし、ヘルパー仲間も支えてくれるので、安心して仕事ができます。

とはいえ、20年以上この仕事をやっていても、初めての現場はとても緊張します。何気ない会話の中から心を通わせ、安心していただける関係性を築くためには、「コミュニケーション力」と「気づく力」が大切。大変なこともありますが、それ以上に学びの多いとても刺激的な仕事ですよ！

買い物してきた食材を確認。そのあとさっそく調理タイムですが利用者さんができる作業はできるだけ自分でやってもらいます。

介護の現場では、利用者さんに直接身体的なケアを行う
介護職員（介護福祉士）のほかに、
看護職員や機能訓練指導員、栄養士など、さまざまな職種のスタッフが協力しあい、
利用者さんの日常生活をサポートしています。
また介護サービスにも、居住型や通所、在宅などさまざまな種類が存在します。
施設ごとにも特徴が異なるので、ぜひ自分の目標を叶えられる職場を探してみましょう。

介護の職種

介護の職場では介護職以外にもいろいろなスタッフが働いています。
主な介護に関する職種をご紹介します。

介護職員（介護福祉士）

食事介助や排せつ介助、入浴介助、更衣、口腔ケア、清拭などにより、利用者さんが一人で行うことが困難な生活動作をサポートします。

訪問介護職員

要介護・要支援者の自宅に訪問し、身体介助や生活援助、通院時の外出移動サポートにより、自立した生活を支援します。

介護支援専門員（ケアマネジャー）

利用者さんが自立した日常生活が送れるように、心身の状況に合わせた適切な介護サービス計画（ケアプラン）を立てサポートします。

生活相談員（社会福祉士）

福祉施設で利用者さんの入所から生活までの相談援助・指導業務を担います。ときには医療施設や公的施設との連絡や調整も行ないます。

機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士）

病気や怪我、加齢等が原因で、自力で日常生活を送ることが困難な利用者さんに、リハビリや機能訓練を行ないサポートします。

看護職員（医師・看護師）

主治医、ケアマネージャー、薬剤師、歯科医師等と連携を図り、利用者さんの病気や障がいに応じた医療処置を行ないます。

栄養士

健康や栄養状態に応じて、個別の栄養ケア計画の作成、実施などのマネジメントを行ない、利用者さんの健康をサポートします。

介護事務

窓口業務や電話応対、労務管理、経理、備品類の管理、各種書類の作成、介助補助など、様々な業務を担当するオールラウンダーです。

介護職　介護職以外　看護職

シアワセの届け方
イロイロあります

介護のシゴト

シアワセを届ける
シゴトバです

主な介護サービス

介護に携わる介護・看護職の方が働く主なサービスです。

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

在宅での生活が困難になった要介護3以上の高齢者が入居でき、原則として終身に渡って介護が受けられる施設です。民間運営のの有料老人ホームなどと比べると費用が安いのが特徴です。

介護老人保健施設

退院後すぐの要介護1以上の方が、身体介護、医療的管理、リハビリテーションによって、在宅復帰を目指す公的施設です。原則3～6ヶ月の短期入居です。

介護付有料老人ホーム

主に民間業者が運営する居住型の施設です。要介護者のみが入居できる「介護専用型」と、自立・要支援と要介護の方を対象にした「混合型」があります。

軽費老人ホーム

60歳以上で、自立して生活することに不安がある身寄りのない人、家族による援助を受けることが困難な方などが入居できる施設です。食事提供の有無でA型、B型に分けられます。

ケアハウス（軽費老人ホームC型）

食事・生活支援サービスのついた軽費老人ホームです。主に自立した独居生活に不安のある高齢者対象の「一般型」と、軽度から重度の要介護状態の高齢者対象の「介護型」があります。

サービス付き高齢者住宅

有資格者の相談員が常駐し、安否確認と生活相談が受けられる住居です。指定を受けている施設では、介護サービスや生活支援サポートを受けられます。

認知症高齢者グループホーム

認知症の状態にある要介護高齢者が入居する施設です。家庭的な環境の中で自立支援を図りながら、5～9人を1ユニットとした少人数で共同生活を送ります。

小規模多機能

デイサービス、訪問介護、ショートステイを組み合わせた地域密着型のサービスです。利用者の希望に応じて日常生活の支援や機能訓練等を行ないます。

介護医療院

長期的な医療と介護の両方を必要とする高齢者を対象に、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と、「生活施設」としての機能を提供できる施設です。

訪問介護（ホームケア）

要介護・要支援者の自宅に介護福祉士や訪問介護士が訪問し、身体介助や生活援助、外出移動サポートにより、自立した生活を支援するサービスです。

通所介護（デイサービス）

要介護者が、入浴、排せつ、食事等の介助、機能訓練を日帰りでー受ける施設です。自宅から施設への送迎もあり、自力での外出が困難な場合にも対応しています。

訪問看護

看護師が自宅に訪問し、利用者の病気や障がいに応じたケアを行うサービスです。主治医、ケアマネージャー、薬剤師等と連携を図った医療処置が可能です。

定期巡回・随時対応型訪問看護

訪問介護士と訪問看護師が連携を図り、定期巡回、随時対応、随時訪問、訪問看護等のサービスで、要介護者の在宅生活を24時間体制で支えるサービスです。

障害者支援施設

介護や援助が必要で、なおかつ自宅で生活することが難しい障害者を対象とした入所施設です。知的障害者や発達障害者、身体障害者などさまざまな方が対象です。

高齢者介護関連　医療・看護関連　障害者関連

シアワセを届けて キャリアアップ

介護の仕事に就きたいと考えたとき、どのようなキャリア形成を考えていけば良いでしょうか。
介護の仕事には、介護の資格を持っていなくても働ける職種から、
資格を取得して就く専門的な職種まで様々な選択肢があり、
複数の資格を組み合わせることでさらなるキャリアアップも目指せます。
また、フルタイム勤務、家事や子育てをしながらの短時間勤務、本業とのダブルワークなど、
幅広い働き方のニーズに対応しているのも特徴です。

キャリアパス

介護士のキャリアパスは、介護職員初任者研修から実務者研修、介護福祉士、認定介護福祉士、
さらにケアマネジャーや社会福祉士など他の職種への転身と続いています。
資格取得により上位に行くにつれ、キャリアや給与の向上が期待できます。

	資格ステップ	資格の内容とできる仕事	介護職員の平均給与額（月給・常勤） ※平成30年度介護従事者処遇状況等調査より
介護の仕事を体験したい	保有資格なし	資格を持っていなくてもできる仕事は、介護助手職です。 利用者の身体に直接身体触れる介護業務は有資格者が行い、 介護職員をサポートする役割を介護助手が担います。	263,010円 平均勤続年数4.9年
介護を本格的に目指したい	介護職員初任者研修	介護の基礎知識・スキルを証明するための入門資格として 位置づけられてるのが介護職員初任者研修です。 利用者の身体に直接触れる介護業務ができるようになります	289,070円 平均勤続年数6.7年
介護福祉士にチャレンジ！	実務者研修	より実践的な介護技術や専門的な知識を身につけ ひとつ上の介護福祉士を目指すうえで必須の資格です 給与のベースアップや待遇の向上も期待できます。	290,580円 平均勤続年数6.1年
介護のプロになりたい	介護福祉士	「社会福祉及び介護福祉士法」によって定められた国家資格です。 専門知識と技術を生かして、利用者の身体上・精神上のケア、 現場の介護スタッフに対する教育・指導などの役割を担います。	316,990円 平均勤続年数8.3年
介護の仕事を極めたい	認定介護福祉士	地域包括ケアシステムのなかで、介護と医療の連携を行うなど、 介護現場だけでなく事業所内の幅広い役割を期待されている 介護職の最上位資格が認定介護福祉士です。	
ケアマネジャーとして働きたい	介護支援専門員		351,480円 平均勤続年数11.4年
他の資格も取得してキャリアアップしたい	社会福祉士など		社会福祉士の場合 337,920円 平均勤続年数6.8年

介護福祉士への道

介護福祉士の資格を取得するルートは「実務経験ルート」「養成施設ルート」「福祉系高等学校ルート」の3ルートと
外国人を対象とした「経済連携協定（EPA）ルート」があります。

実務経験ルート
- 実務経験3年以上
  - 実務者研修
  - 介護職員初任者研修＋喀痰吸引等研修

養成施設ルート
- 高等学校の卒業（卒業認定）
  - 福祉系大学 社会福祉士養成施設
  - 保育士養成施設
  - 介護福祉士養成施設 2年以上
  - 介護福祉士養成施設 1年以上

福祉系高校ルート
- 福祉系高校卒業
  - 新カリキュラム 2009年度以降入学
  - 旧カリキュラム 2008年度以前入学
    - 受験申込時に選択 介護技術講習

国家試験（実技試験免除※）
※福祉系高校ルートで介護技術講習を受けない選択した場合は、国家試験にて実技試験があります。

介護福祉士

補足

養成施設ルート
今までは国家試験を受験せずに介護福祉士資格を取得することが可能でしたが、2022年度以降は国家試験の受験が必須となりました。2017～2021年度の養成施設卒業者については、経過措置が取られることとなり、暫定的に5年の期限が付いた介護福祉士資格が授与されます。期限が切れた後も介護福祉士の資格を継続するには、5年間現場で勤め続けることで国家試験なしで資格を取得できます。

実務経験ルート
2016年度よりでの国家試験の受験資格として、3年以上の実務経験に加えて「実務者研修（450時間）」の受講が義務付けられました。実務者研修の修了者は介護福祉士国家試験のうち実技試験が免除され、介護福祉士資格取得後に「喀痰吸引等研修」を受講する必要がなくなりました。
「福祉系高校ルート」
2009年度以降に特例高等学校に入学し、必須単位を取得、卒業後、9ヵ月以上（勤務日数135日以上）の実務を経験したのち、介護技術講習を受講した場合も国家試験を受けることができます。

経済連携協定（EPA）ルート

EPA介護福祉士候補者が資格取得を目指すルートです。EPA介護福祉士候補者とは、日本の介護福祉士資格取得を目的として、日本の受け入れ施設で研修を受けながら就労するインドネシア人、フィリピン人およびベトナム人のことを指します。
介護施設で3年以上就労・研修をおこない、国家試験に合格すれば介護福祉士として就労することができます。